フジサンケイグループの産業情報紙
日本工業新聞
平成10年(1998)第15
4|9
日刊(土、日、祝日休
発行所:©日本工業新聞
東京本社=東京都千代田区大手町1-7-2〒100-812
大阪本社=大阪市北区梅田2-4-9 〒530-000

平成の名匠

最先端の技術者・研究者たち

231

異人種交流の夢

歯車博士

川崎 芳樹さん④

(いすゞ自動車)

"誤差"あって"一番"とれる

トランスミッション(伝導装置)で最大の問題は、ギアノイズの克服だ。

しかし歯車には、いわく言いがたしの面がある。

誤差のない高精度の歯車同士をかみ合わせても「それが最高」というわけにまいらない。

「歯車博士」こと、川崎芳樹(五三)=写真右から二人目=は、おもしろい喩で説明してくれた。

「美男美女が結ばれても、最高の美人が生まれるとは限らないでしょう。自動車の歯車は、それと同じですよ。多少は、誤差のある歯車をかみ合わせたほうがよろしい」

道路の環境、ドライバーの運転の仕方など、いわゆる"外乱"によって、トルク(軸の回転力)は瞬時に変化する。トランスミッションに求められるのは適応力といわれる。

「ギアノイズの原因を追って、何度も挫折を味わいました。ひとりでは何もできませんね」

川崎のもとへ、精鋭が集まった。

軽部正彦(現コンポーネント工場品質管理課)、杉野慎一郎(同ギヤラボG)、稲田昭宏(同技術開発部要素技術グループ)といった面々。彼らは、ギアノイズの測定評価システムを完成させ、二年前に米国の特許を取得している。

川崎は、力をこめてこう言う。

「管理(心)と技術(頭脳)と、技能(腕)の三つが対等にそろってはじめて新しいモノが生まれる。モノづくりは人づくり。人が替われば モノも変わります」

ギヤラボ課長、コンポーネント工場長を経て、一九九七年四月から技術開発部長の職にある。

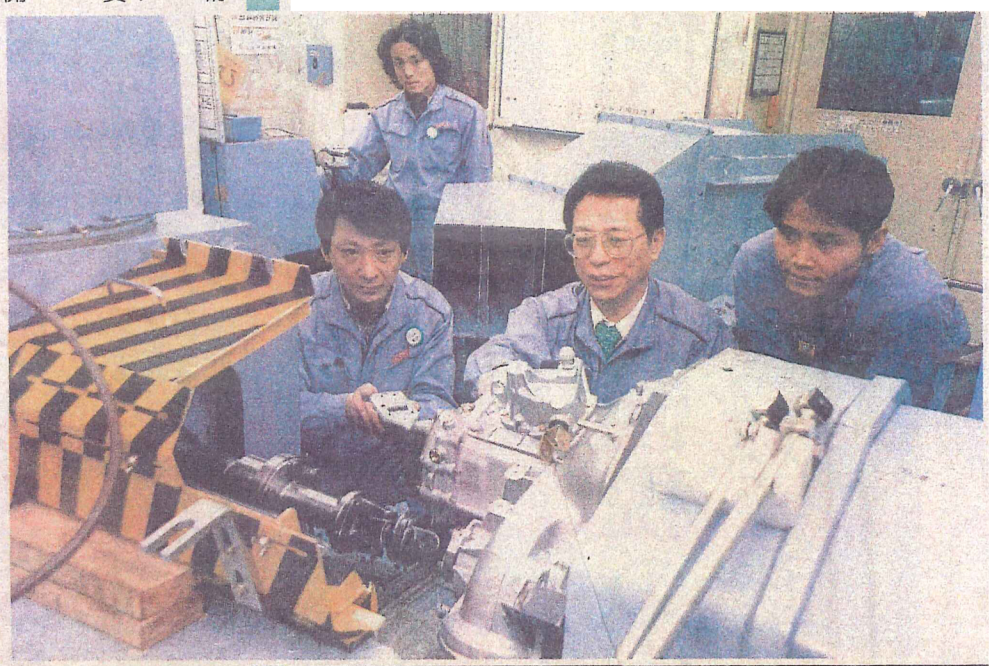
世界に冠たる歯車生産技術を確立した余勢をかってディーゼルエンジンに取り組む。

いすゞは七一年七月、世界最大の総合自動車メーカー、米国ゼネラル・モーターズ(GM)と資本・技術・販売など総括的な提携を結び、四分の一世紀以上にわたって関係を続けてきた。

そして九七年夏、GMグループのディーゼルエンジン開発は、今後いすゞが主体となって進めていくことで合意したのだ。

「ディーゼルで世界一にならなければ、いすゞのあすはない」と川崎の決意は固い。

そのため、彼には"異人種交流"の夢がふくらむ。



スタッフのひとりに台湾人の博士がいるけれど、さらにインド、ベトナム、カンボジアなどの人材を集めたいという。

川崎には、大学時代から続けている趣味に社交ダンスがある。

休日には、東京・新宿のステレオダンスホールに通い、たくみにタンゴやワルツのステップを踏む。

異人種の才能が一つの輪になる日も近いだろう。

=文中敬称略=

◆かわさき・よしき いすゞ自動車 技術開発部長 工学博士、技術士

ジャーナリスト 島谷泰彦

この項おわり。次回14日からは大日本印刷の沓掛正樹さんで「次世代写真」です。